

(別添資料1)

事業所名		がじゅまる大楠				支援プログラム（参考様式）		作成日		令和8	年	5	月	22	日
法人（事業所）理念		全ての家族に安心と居場所を													
支援方針		安全な医療的ケア体制のもと、お子さま一人ひとりの五感を育む「ムーブメント療法」を通じ、心身の健やかな成長を促します。リハビリや季節の新しい体験を通じ、毎日の生活に彩りと笑顔を。親御さまと密に連携し、ご家庭での安心した生活が続くよう、専門職チームが一丸となってお子さまの未来の可能性を広げる支援を行います。													
営業時間		9	時	00	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無		ありなし			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	車内検温・バイタルチェック・全身状態の観察を徹底し、微細な心身の変化を迅速に把握します。また、理学療法士等と連携し、食事や排泄時の安楽な姿勢保持、リラックスできる環境設定を通じて、安定した生活リズムの確立を支援します。													
	運動・感覚	専門職（PT・OT）による個別訓練に加え、五感を心地よく刺激する「ムーブメント療法」を深めます。遊びの中で自分の体の動きに気づき、感覚の統合を促すことで、お子さまが本来持っている「動きたい」という意欲と身体能力を最大限に引き出します。													
	認知・行動	構造化されたルーティンの中で見通しを持って過ごせるよう支援します。写真カードや実物を用いた視覚的なアプローチを取り入れ、身の回りの物事への興味・関心を広げるとともに、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を育みます。													
	言語 コミュニケーション	表情や視線、わずかな動きからお子さまの「伝えたい」サインを丁寧に汲み取ります。活動の選択場面（「どちらにする？」等）を意図的に作り、VOCA（音声出力機器）や写真の活用も検討しながら、自分の意思を相手に伝え、通じ合う喜びを共有します。													
	人間関係 社会性	タッチングやマッサージを通じた1対1の信頼関係を基盤に、お友達との集団活動（朝のご挨拶や輪になって行う療育）へと繋げます。他者を意識し、共に過ごす心地よさを感じる中で、社会性の芽生えを優しく見守り、促していきます。													
家族支援		連絡帳アプリや送迎時の対話を軸に、日々の小さな成長やエピソードを丁寧にお伝えします。親護さまの不安や困りごとに寄り添うカウンセリングマインドを大切に、ご家庭でのケアが少しでも安楽になるよう、専門職の視点から具体的な助言やレスパイト（休息）のご提案も行います。						移行支援		進級などの大きな節目に向け、関係機関との緊密な情報連携を強化します。個別支援会議等を通じてお子さまの特性や必要な医療的ケアを正確に引き継ぎ、環境の変化に伴う不安を最小限に抑え、新しい場所でも一貫した支援が受けられるよう「架け橋」としての役割を担います。また、地域交流や親御様との連携を深め、お子さまが地域社会の中で一歩ずつ世界を広げ、安心して過ごせる環境作りを推進します。					
地域支援・地域連携		関係機関や移行先（保育園・学校等）と密に情報共有を行い、お子さまを取り巻く支援の輪を広げます。特に就学や進級などの節目には、個別支援会議等を通じて一貫性のある支援体制を整えるとともに、地域交流イベントへの参加を通じて「社会の一員」としての居場所作りを進めます。						職員の質の向上		毎日の朝礼・終礼での多職種連携による振り返りを徹底し、支援の質の標準化を図ります。医療的ケアやムーブメント療法に関する外部研修への積極的な参加に加え、事業所内での事例検討会を定期開催し、常に最新の知見に基づいた「安心・安全」な療育を提供できるよう努めます。					
主な行事等		お散歩、ひな祭り、他事業所との合同イベント、避難訓練、プール遊び、七夕会、節分、クリスマス会、お別れ会、お誕生日会													